

「一般外科医のための 血管の処理と応用手技」

北海道大学教授・外科 田 辺 達 三 編集

京都大学教授・第1外科

戸 部 隆 吉

畏友、田辺達三教授が「一般外科医のための血管の処理と応用手技」を上梓された。一般外科医、消化器外科医を対象に、明日からの臨床に直接役に立つように、平易に、明快に述べておられるが、格調の高い秀れた名著である。

現在、一般外科病棟入院の大半は消化器癌患者であり、消化器癌治療が外科手術の大きなウエイトを占めていることは事実である。言うまでもなく癌手術は、郭清の手術であり、すべての外科医は何らかの形で血管の直接処理に当面している。また肝胆膵の外科手術が多くなってきた昨今では、肝動脈や門脈の処理、下大静脈のように大出血を併発しやすい大血管を処理する機会が激増している。

本書は、血管外科を専門としない一般外科医が、血管を処理するう

で、常識としてわきまえておかなければならない基礎的な知見から応用篇まで、図をふんだんに用いて極めてわかりやすく解説されている。

血管処理の基礎を、田辺教授御自身で執筆しておられる。血管の剝離・露出、遮断テープの通し方、血管の剝離方向、血管損傷時の処理、血管吻合法等血管処理の基本事項と各部の血管の露出の方法を明快に図示しておられるが、この項目を通覧するだけでも一般外科医にとっては教えられる所が多く、感銘を深くされるであろう。

続いて、教室の各専門領域の第一線で活躍しておられる新進気鋭の方々によって、頸部甲状腺外科、乳腺外科、肺縦隔外科、心臓外科、胃腸外科、肝臓外科、胆道外科、膵臓外科、脾臓外科、後腹膜外科等の悪性腫瘍に対する根治手術、拡大根治手

術の基本となる血管の処理と手術手技の工夫が詳細に述べられている。

すべて、日常の臨床の中で実際に苦勞した第一線の臨床家によってのみ成しうる記載であり、努力と工夫の数々が見られる。

更に、最近増加しつつある血管外傷や、大動脈瘤、腹部内臓動脈障害等、本来の血管疾患に対する手術が、平易、明快に図解されている。

本書の特徴は、北海道大学第二外科学教室の方々によって記述されていること、したがって編集者、著者の意図が統一していることと、図のすべてが同教室の枝澤実博士、すなわち、それらの手技を自分の眼で見、自分で手術し、内容を100%理解している外科医によって描かれていることで、読者にとっては極めて理解しやすい。

読者は一見して教室のエネルギーを感じ、感銘を受けられるであろう。熟達した指導医から手術をはじめた研修医まで、一般外科医のすべてに一読をすすめたい名著である。

B5判 304頁 図326 写真16 1985

¥7,500 千400

医学書院 刊